

ノンフィクションドラマ

神津喜代子作 小川政弘脚色

## 「シャローム人生」

### <前編>「見果てぬ夢」

神津喜代子　　じゃあね。お母さんのほうは 2 時には授業終わるから、3 時過ぎには戻ってると思うけど、夕方から自治会があるの。もしあなたが先に帰ったら…。

娘由布子　　分かってるわ。晩ご飯のお買い物でしょ。そして洗濯物取り込んで、お風呂わかすのね。ハイハイ。

喜代子　　いつもごめんね、由布子。お母さんの学びは、あと 1 年だけだから、いろいろと不自由かけるけど、我慢してね。

由布子　　もう慣れてるわ。親子で学生やってるんじゃ、こっちも甘えてらんないわ。それにお母さんのほうは、聖書の勉強だから、協力しなかったら神様の罰が当たるかもしれないし…。

喜代子　　そうよ。頼りにしてます。(笑い)

喜代子ナレーション　　わたしの名は神津喜代子。40 代半ばの主婦で、2 児の母でもあります。イエス・キリストを救い主と信じてクリスチャンとなってから、もう 11 年目になります。わたしは今、毎週日曜日、忠実に礼拝に出席し、家庭集会、祈祷会そのほかの奉仕をするかたわら、より神様のお役に立ちたいとの願いから、週 3 回の神学校にも通っています。文字通り、“神様第一”の生活ですが、それは教会と家庭だけではありません。今住んでいる神奈川県相模原市の地域活動でも、自治会、管理組合、公民館活動などに、クリスチャンであることをはっきりと正面に出して、精一杯のご奉仕をさせていただいています。いつでも、どんなところでも、キリストのしもべとして生きる。わたしのような自我の強い、自分勝手な罪びとのために、命を捨てて愛してくださったイエス・キリストの愛を伝えるために生きる。そこにわたしは、ほかの何ものにも代え難い喜びを感じているんです。

(音楽)　　(ブリッジ)

喜代子　　あーら、このトマトおいしそうねえ。

八百新の主人　　さすが奥さん、違いが分かるねえ。産地直送、今朝取れたってやつを、ちょっと高いけど取り寄せてみたんですよ。

喜代子　　道理で。頂くわ。ところで八百新さん、この間のトラクト、読んでみてくれた？

八百新　　トラクト？あ、あのキリストさんの、あれね。へえ、実はこっちが忙しくて、そのうちと思ってタンスんとこに置いていたら、女房のやつが先に読んじまって、エラ

く感激してんですよ。

喜代子

そう。よかったわ。

八百新

「こんないいお話を信じてりゃ、神津さんの奥さんみたいになれるわけだね」って。いやね、息子が最近ワルになって、女房もわっしょもついついガミガミやるし、夫婦同士も「テメエのせいだ」っていがみ合うし、困ってたとこなんですよ。ま、女房にも「読め読め」って言われてますんで、今晚辺り、読ましてもらいますよ。

喜代子

まあうれしい。わたし、八百新さんのためにも奥さんのためにも祈ってたから。じゃ、また寄るわ。

八百新

毎度、ごひいきに！

ナレーション

そんなわたしを、教会の皆さんは「女パウロ」なんて呼んでくれます。あの偉大な福音の伝道者の名前で呼ばれるなんて、本当に畏れ多いことですが、ただ、あのパウロのように、救われるまではキリスト教に真<sup>ま</sup>っ向から反対し、軽べつしていた、いわば“キリストの敵”が、ほんの一瞬の間に 180 度変えられて、イエス様に文字通り捕らえられ、キリストのしもべになったという点では、わたしも同じだな、と思います。

ほんとに、人一倍勝ち気で、人に負けるのが嫌いで、何でも人の先に立たなければ気の済まないわたしは、キリスト教とは最も縁遠い存在でした。そんなわたしが、今こうして、クリスチャンとして感謝と喜びと平安の中に生きている、いえ、イエス様に生かされている。わたしがこのように変えられたのは、10 年前のある夜の出来事でした。そしてそのことが起こるまでには、今にして思えば、神様の見えない導きのみ手があったのです。

(音楽)

(回想のブリッジ)

ナレーション

わたしの“目立ちたがり屋”は、小さいころからでした。5 人兄弟の中で育ったわたしは、親や兄弟からもあまり意識してもらえない寂しさから、いつしか人の褒め言葉や、優しい言葉を意識的に求めるようになっていたのだと思います。小学生のころから、何か人の前に立てそうなチャンスがあると、いつも自分を売り込むのでした。あれは中学2年の時でした。校則委員会の委員長の選挙があり、ほかの2人の男子の立候補者をしり目に、ただ1人女子で立候補したわたしは、並み居る 1500 人の生徒を前に、こんな演説をぶったのです。

喜代子(中2)

皆さん、まず男の皆さんに言います。女の心をもっと信じてください。ただ突き進むだけ、ただ頑張るだけでなく、一生懸命やってる人や、思い切ったアイデアを持つてる人を大切に作る心こそ。大きな仕事をするときのかなめです。わたしは女ですが、男の人の力ある部分を大切にして、それを生かすために、今時分を生かしたいと本気で思っています。どうぞわたしを使ってください！

(効果音)

(万雷の拍手。男子の歓声も)

喜代子 次に同性の女の皆さん。わたしを応援してください。この学校を愛し、皆さんの力とアイデアを…。

ナレーション …という具合で、わたしはいつも“人の前に立ちたい、人に注目されたい”と願い、夜も寝ないでその方法を考えるのでした。思えば何と不気味な青春時代だったのでしょうか。こんなわたしの男勝りの性格は、長ずるに及んでますます強くなっていきました。

喜代子 あれは、わたしが疎開先で、そのまま家族と住みついた群馬の高校を出て、地元のある会社に就職して間もないころでした。

喜代子 あの、吉川さん、うちには女子の転勤はないんですか？

吉川 転勤？ さあ、あまり聞かないねえ。社内の配置転換はよくやるけど。どうしてまたそんなこと？

喜代子 わたし、こんな田舎にじっとしてるのがイヤなんです。顔見知りばかりだし、刺激のない毎日だし。ねえ吉川さん、横浜支店に転勤させてもらえませんか？

吉川 横浜？ 一人でか？ ムチャだよ。前代未聞だ。

喜代子 でも就業規則には、“会社は、必要に応じて、従業員を転勤させることができる”ってちゃんと書いてある。“女子はダメだ”なんてどこにも書いてないわ。ねえ吉川さん、組合の書記長でしょ。わたしを横浜に転勤させてくれるように、会社と掛け合ってよ。ね、お願い！

吉川 参ったな。君にはかなわんよ。

ナレーション こうしてわたしは、職場の労働組合を動かし、そのころでは珍しい女子転勤者として、一人横浜に行きました。そこでもガムシヤラに働いて、上役にも認められ、男の友達もたくさんでき、それまでとは違う華やかな毎日が始まりました。今の主人と出会ったのも、そんなころでした。

男友達 喜代子。友達紹介するよ。高校時代のクラスメートで神津だ。

神津 神津です。よろしく。

喜代子 あ、あの松野です。初めまして。

男友達 喜代子、知ってるか？ 神津は、高校時代は野球部のピッチャーとキャプテンで鳴らして、甲子園にも出たんだ。学校中の女の子のあこがれの的で、すごかったんだぜ。

喜代子モノローグ へーえ。この人、男らしくて頼もしそうだし、それに誠実そう。ひょっとして、この人と結婚できたら…。

ナレーション こうしてわたしは、程なく今の主人と結婚しました。多分主人は、口にこそ出しませんが、わたしの強引さに負けたのだと思います。

(音楽) (ブリッジ。軽快な感じ)

ナレーション やがて子供ができたわたしは、主人の希望もあって退職し、家庭の主婦になり

ました。でも、そこでもわたしは、いわゆる育児ママに専心することができませんでした。わたしの中の何かが、じっと引きこもっていることを許さなかったのです。

(効果音)

(公園の中の子供たちの声)

喜代子モノローグ あーあ、あのお母さんたち、ああやって子供遊ばせながら、一日中おしゃべりして、あれで満足してるのかしら。あんなにはなりたくない。その点、男はいいわ。主人なんか、やるべき仕事を持って、毎日あんなに忙しそうに充実してやってる。わたしは、子供2人の育児で、このまま日を過ごさなきゃならないの？ イヤよ、そんなの絶対イヤ！ 何かやらなきゃ。

ナレーション

こうしてわたしは、下の娘が2歳にもならないうちに、住んでいた相模原の地域の役員を買って出、持って生まれたどん欲さと勝ち気な性格で、たちまち地域のリーダーに祭り上げられてしまいました。市民運動、消費者運動、反戦運動、署名運動、選挙運動、様々な地域活動の先頭には、大抵わたしの名がありました。こうしてわたしの家庭離れは、どんどんエスカレートしていきました。

喜代子モノローグ

これこそわたしの望んだ生き方よ。女だということで甘く見られたり、バカにされたくない。なんたって、世のため、人のためになることだもの。男の中にいって、道に外れたことは何一つしてないし、夫を裏切っちゃいないわ。

ナレーション

そう自分に言い聞かせながら、男に伍して更に外の世界に羽ばたくことへの見果てぬ夢を見ていたその時のわたしは、今思えば、危ういふちに立っていたのでした。そんなわたしに、神様は、一人のクリスチャンの友を備えていてくださったのです。彼女の名は狩野久子さん。自治会で知り合った、同じマンションの住人でした。わたしと違って地味でしたが、言うべきことはハッキリと、しかも相手の立場にたって言うその誠実さが、日ごろからわたしは好きでした。この人なら、わたしの心の中のことを聞いてくれそうな気がしたのです。

狩野久子

お疲れ様。神津さん、また選ばれちゃったわね、自治会の会長。大変だけど、あなたならできるわ。よろしくね。

喜代子

ありがとう、狩野さん。

久子

それにしてもあなた、疲れない？ ご主人やお子さんたちはどうなの？ ちゃんと主婦やってるの？

喜代子

やってるわよ。できるだけことはしてるつもり。

ナレーション

そう答えながらも、わたしは内心ドキッとしていました。心のどこかで恐れていたことを、ズバリと言われたからです。

## <後編>「2時間の奇跡」

喜代子

今日の自治会はしゃべりまくって、ちょっと疲れたわ。狩野さん、ちょっとお宅寄っていいかしら。

久子 いいわよ。わたしのほうこそ、一度寄ってもらおうと思ってたところ。どうぞ。

ナレーション こうしてわたしは、狩野さんのお宅に伺い、飾ってあった聖書の言葉や絵などから、彼女がクリスチャンであることを知りました。

喜代子モノローグ —やっぱりそうか。なんとなくほかの人と違ってると思った。だけど、キリスト教も結局は“苦しいときの神頼み”でしょ。イヤだわ、そんな他力本願。だけど、だけど不思議ね。この人はわたしの知らない何かを持ってる。ふわっと包み込むようなあったかさ。でも、その底にある<sup>しん</sup>芯の強さ。これはどこから来るんだろう？

ナレーション わたしの心の中には、彼女と会うたびにこの矛盾した二つの感情が渦巻くのでした。頭では信仰者の生き方を激しく否定しながら、わたしの足は、あの説明のつかない暖かさを求めて、自然に彼女の家に向かうのでした。

(効果音) (玄関のブザー)

喜代子 (少し酔っている)こんばんは。狩野さんいる？

久子 あ、神津さん。いらっしやい。

喜代子 今ね、市議選の準備委員会終わって一杯やってきたところ。このまま家に帰るとちょっとヤバいのよ。悪いけどコーヒーごちそうになっていいかな。

久子 いいわよ。大変ね、選挙も。ここんとこ毎晩でしょ。さあどうぞ。

(音楽) (賛美歌BGM)

久子 神津さん。一度聞こうと思ってたんだけど、あなた、今の生き方で満足してるの？ むなしさを感じることはない？

ナレーション わたしは一瞬“来たな”と思いました。この人となると、なんか、心の中が丸見えにされてるようなのです。彼女の問いは、わたしがひそかに感じていたことでした。ふしだらこそしなくても、外の世界で男の人たちと、昼は会議、夜は酒場ののれんをくぐる毎日。選挙ともなれば、多くの婦人票を握る実力者として、人々のお追従<sup>ついで</sup>や作り笑いで祭り上げられ、夜遅く家に帰ると、もう寝静まった子供たちと、無言で出迎える夫。今にして思えば、あそころ主人は、どんな主でわたしを待っていたのでしょうか。でもその時の、おごり高ぶったわたしには、気楽によって冗談を言い合える男の人たちに比べ、無口で地味でただ誠実なだけの夫が不満でした。それでいて、こんなわたしに一言も文句を言わず、ただ黙っている夫の目が、かえって無言のうちに厳しく裁いているようで、それが余計わたしをイライラさせていたのです。

久子 神津さん、人間ってね、徹頭徹尾自己中心だと思うの。何でもできる有能な人ほど、いつでも自分を中心に地球が回ってないと気が済まないのね。でもね、それは結局見えないところで、多くの人を傷つけてるかもしれない。相手の苦しみや弱さが見えなくなってしまうのね。その自分中心の心を、聖書では“罪”といってるの。でも神様は、その罪を赦<sup>ゆる</sup>すために、一人子のイエス・キリストを

十字架に付けてくださったのよ。

喜代子 (酔った勢いで) ちょっと、これまでその話、何回も聞かされたわよ。今まではさあ、あんたあんまり真剣だから、黙ってハイハイ聞いてたけど、今夜は言わしてよ。悪いけど、ハッキリ言ってそんな話、バカバカしいのよね。あんた、そんなこと、本気で信じてんの？ 人のために死ぬ神様なんて、あるもんですか。アホラシ！

久子 どんなにバカにしても、本当のことは本当なんだから。(間)あなた、ほんとは寂しいのよ。わたしには、あなたの寂しさが分かる。本当の愛、知らないから寂しいんだよ、かわいそう…。

喜代子 何よ。人の弱みに付け込んで、知ったようなこと言わないでよ！

ナレーション そう言いながら、彼女を見たわたしは思わずハッとしました。彼女の目には、涙が滲<sup>にじ</sup>んでいたのです。

喜代子モノローグ この人は…、この人はわたしのために泣いてる！

ナレーション その時からわたしは、彼女の家で持たれていた聖書研究会に出るようになりました。半分は義理で、皆が祈ってる時には、一人立ち上がってコーヒーをすすめるような、ずいぶん迷惑な客でした。聖書の話も、ほとんど頭の上を素通りしているように思えました。でも、神の言葉はつながれてはいませんでした。わたしのために積まれていた友の祈りは、ひそかに神に届いていたのです。程なく神様は、そのことを目の当たりに見せ付けてくださいました。あれは、忘れもしない、1978年11月17日、夜半を過ぎても冷たいみぞれが降り続き、凍えるように寒い夜でした。

(音楽) (BGM 重苦しい感じ)

(効果音) (ナレーションの背後で喜代子と男数人の嬌<sup>きょう</sup>声)

ナレーション その日、夫は研修旅行で留守でした。わたしはよい機会とばかり、自宅に男性を含む飲み仲間を誘い、すでにかかなりの時間、飲んだり食べたりしておりました。すでに時刻は夜中の2時を回り、10人近くの仲間も数人の男性に減って、みんな半ば理性を失っていました。あのまま続いていたら、わたしはそれまで決して越えなかった一線を越えていたかもしれません。その時、買えるはずのない夫が帰ってきたのです。酔ったわたしの目に、コートの前をはだけ、両手をズボンのポケットに入れて仁王立ちになった夫の姿が、巨大な神のように見えました。

夫 ここはわたしの家だ。出ていけ。明日中に出ていけ！

ナレーション そう言い残すと、夫は部屋中の電気とストーブまで消して、奥の部屋に入ってしまった。わたしは恐ろしさと寒さでブルブル震えだしました。

喜代子モノローグ ああ、もうダメだ。夫に捨てられたら、もう何もなし！…神様、助けてください。神様！(泣き崩れる)

ナレーション わたしは、初めて神の名を呼び、ワーワー声を上げて泣き続けました。溢れる涙とともに、わたしの中で、ごう慢な自我が粉々に砕け、わたしは捨てられたボロ雑巾ぞうきんのような姿で、神の前に引き出されたのです。その時でした。わたしは、あの友が涙とともに語った十字架の話を、ハッと思い出したのです。

喜代子モノローグ あの話は本当だろうか？ イエス・キリストは、こんなわたしのために身代わりに死なれたのか。…神様ならできるはずだわ。今のわたしには、このお方しかない！

ナレーション わたしは、このキリストの十字架にすべてを懸けました。

喜代子 (涙でしゃくりあげながら) 神様、わたしは、こんな者のためにイエス様が十字架で死んでくださったことを信じます。ありがとうございます。こんな…、こんなわたしのために死んでくださるなんて…。

ナレーション 言葉に出して祈った途端に、わたしはイエス・キリストの十字架が、自分の罪のためだったと直感的に分かったのです。「十字架こそ、神様の愛だ。わたしを赦してくださるのは、イエス様の十字架だけだ！」そう思った時、わたしは夫に対し、今どんなにひどいことをしたか、これまでどんなに愛のない者だったかを思い知らされ、またも激しく泣き出しました。涙がどこに残っていたかと思うほど、あとからあとからあふれるのです。

喜代子 あなた、ごめんなさい。赦して。神様、ごめんなさい。赦して！

ナレーション その時です。床にひれ伏していたわたしの肩に、暖かい手が触れたのです。

夫 もういいよ、喜代子。やり直してみよう。

ナレーション そういう夫の声に、もう怒りはありませんでした。わたしは、まるで全身の力が抜けたように、ぼう然として夫の顔を見上げました。

喜代子モノローグ 赦された…。赦されたんだわ！ 神様にも、夫にも、赦してもらえたんだわ！

ナレーション その夜の生まれて初めての祈りを、神様はわたしの“悔い改めと信仰”のあかしとして受け入れてくださり、わたしをキリストの命に全く新しく作り変えてくださったのです。まさしくそれは、生ける神様のなされた、“2時間の奇跡”でした。

(音楽) (エンディング)

ナレーション (間)あれから 10 年たちました。あの時以来、わたしの心は、イエス様の与えてくださる平安で満たされています。神学校卒業後のことも、全く主にゆだねています。主にゆだねる平安の毎日、それがわたしの“シャローム人生”です。

聖書 新改訳第3版 ガラテヤ人への手紙 2:20「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」

<完>